

# 平成31年度 学校自己評価システムシート (県立鶴ヶ島清風高等学校)

※ 学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇談会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

目指す学校像	地域に貢献できる人材の育成
重点目標	1. 「自ら考える力」の育成 2. 「健全な職業観」の育成 3. 「社会で通用する人間力」の育成

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

出席者	学校関係者	8名
	生徒	4名
	事務局(教職員)	8名

学校自己評価					年度評価(2月1日現在)		学校関係者評価
年度目標					年度評価(2月1日現在)		実施日 令和2年2月7日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	①授業を理解できる生徒は各年次60%を越えている。引き続き自主学習の習慣付をさらに進め、授業外学習時間を確保していく必要がある。	授業改善・自主学習の取組の推進	①アクティブラーニング、学びあい、双方向のやり取りを通して質問能力を高め、興味や関心を持たせて論理的な思考を育む。 ②放課後の自習室の活用を推進し、授業での課題を工夫する等、自主学習の習慣を付けさせる。	①生徒アンケートにおける以下の項目について水準を維持したか。 ・授業に満足している。 ・授業が理解できるか。 ・授業外学習ゼロ時間と回答する生徒が減少したか。 ②自習室の利用頻度が増加したか。	①生徒アンケート結果は以下の通りであった。 ・授業に満足している。 6.6pt 増加 ・授業が理解できる。 2.4pt 増加 ・授業外学習ゼロ時間 現状維持 ②各年次・教科で試験前等に自習室を活用して、学習会・補習を行った。	A	学力向上推進委員会を中心に検討した「学力向上の取組」1考える力・2基礎学力・3タブレットやスマートフォンを使用して展開する授業、を具現化させる。また、評価方法・朝自習・総合的な探求の時間等について引き続き検討していく。
	②基礎学力定着の取組は継続中であるが、成績上位層がさらに高いレベルの学習内容に取り組む環境を与える。	基礎の徹底・発展的な学習	①日常の授業への取り組み方の指導及び予習・復習を励行する。 ②生徒の学習状況を把握し、適切なアドバイスを行う。進学補習の充実を推進する。	①基礎学力テストの成績が向上したか。 ②成績優良者数が増加したか。	①1年次生3教科合計点で成績ランクが向上した生徒が31人であった。 ②2学期終了時での成績優良者数は64名から66名と微増であった。	A	
2	進路活動を通して進路実現の意識は高められつつあるが、生徒が自身の進路実現について主体的に考える姿勢がさらに向上するように各種ガイダンスや進路行事の質を高める。	進路意識向上及びガイダンス機能を充実させたキャリア教育	①進路ガイダンスや年次集会等を利用して進路活動への動機付けを促進すると共に、より質の高い進路講演会・講義・見学会を多く実施する。  ②1年次生対象に本校独自のインターンシップを実施する。	①進路希望調査による大学・短大進学希望者が増加したか。  ①就職希望者が100%就職できたか。進路未決定者が10%以内であったか。  ②アンケートにより生徒・事業者から高い満足度等が得られたか。	①大学と専門学校の希望者数は昨年とほぼ同数で、短大と就職希望者がやや減少傾向にある。就職希望者は100%就職できた。12月時点で進路未決定者の割合が約13%残っている。 ②生徒アンケートの結果、「充実していた」の回答が85%以上であった。半数以上の生徒が、また機会があればやりたいと回答した。事業所アンケートの結果、「次年度も受入れたい」の割合が90%以上であった。	A	各種ガイダンスや進路行事、進路以外の行事で考えさせる内容を増やし、進路未定者を10%以下に減らせるよう努める。 1年次インターンシップを今年度の形態を基本にしてさらに改善していく。 2年次の希望制インターンシップ、上級学校見学・聴講の参加人数を増やせるよう生徒の意識の高揚を図る。
	①整容面(服装・頭髪)は改善されつつあるが、高校生活でのルールが守れない生徒がいる。	社会性・公共性意識の向上	全校集会等における整容指導や他に対するホスピタリティ(思いやり)指導の実施及びルール遵守への指導に粘り強く取り組む。	服装・頭髪違反者、問題行動等が前年度より減少したか。	服装・頭髪指導対象者数は前年度より減少した。問題行動件数は例年並みであった。	A	服装・頭髪の指導件数はかなり落ち着いてきている。 問題行動については、今までになかったタイプの指導が複数あったので、指導措置基準の見直しが必要である。 交通安全・マナーに関する指導は継続し進めていき、自動二輪等の車両取得者に対する交通安全講習(県主催)にも参加させていく。
3	②自動二輪等の免許取得に関する指導方針の変更に伴い、免許・車両取得に関心を持つ生徒がいる。また、通学中の自転車乗車マナーについての苦情が一定数ある。	交通安全指導の推進	自動二輪等の免許・車両取得について、保護者を交えた面談の中でその必要性の再確認と命の大切さについて指導を行う。自転車乗車マナーについては集会や日常の場面で指導する。	自動二輪等の免許・車両取得、乗車は、ルールが守られているか、交通事故件数が前年度より減少したか。	自動二輪等の免許・車両取得については概ねルール通りに進めることができた。交通事故件数については1件のみであった。	A	・社会のルール・マナーを守ること人間力のひとつだと思う。自分がどう思うか・どう考えるかが中心ではなく、他者がどう感じるかに重きを置いていける人間づくりを目指して欲しい。 ・どんな所でも意見を言えるように普段から生徒に発言をしていって欲しい。 ・前向きで建設的で感謝の心を持ち、皆と一緒に歩もうという協調性を持つ生徒の育成を期待する。